

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730141

研究課題名(和文)日英同盟の衰退過程に関する実証的研究 - 国際的要因・世論要因・経済要因の連関 -

研究課題名(英文)The study of the decline of the Anglo-Japanese Alliance: the linkage of factors of diplomacy, public opinion and economy

## 研究代表者

奈良岡 聡智(Naraoka, Sochi)

京都大学・法学(政治学)研究科(研究院)・教授

研究者番号：90378505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日英同盟がなぜ、どのようにして廃棄に至ったのかを、一次史料に基づいて解明することを目的としたものである。本研究では、日本が第一次世界大戦に積極的に参戦し、中国に対華二十一カ条要求を提出する過程で、イギリスの対日不信感が増大したという事実を重視し、この間の日英関係の分析に主力を注いだ。分析にあたっては、国際的要因、世論要因、経済要因という三点を重視した。本研究の意義は、第一次世界大戦期の日本の積極的勢力拡張政策が、戦前期日本外交の基軸であった日英同盟を崩壊させ、日本を国際的に孤立させる要因として極めて重要な意味を持っていたことを明らかにしたことにある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to reveal why and how the Anglo-Japanese Alliance declined. This study mainly focused on the analysis of how distrust of the British towards the Japanese increased from Japan's entry into the First World War to her present of the Twenty-One Demands towards China. I examined not only diplomacy but also the factors of public opinion and economy which affected the Anglo-Japanese relations. This study revealed that Japan's pursuit of enlargement of her interests since the outbreak of the war caused the decline, and finally the collapse, of the Anglo-Japanese Alliance and the isolation of Japan in international politics.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：外交史 国際関係史 日英同盟 対華二十一カ条要求 第一次世界大戦 加藤高明

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 日英同盟は、日本外交史における古典的テーマの一つである。これまでで最も優れた研究は、イギリスのイアン・ニッシュ氏によるもので、同氏は日英両国を中心とする一次史料を渉猟し、同盟の成立から廃棄に至る過程を通史的に明らかにしている。また、1910年代の日英同盟の衰退過程に関しては、イギリスではピーター・ロウ氏、日本では臼井勝美氏、細谷千博氏らが、優れた古典的研究を残している。

(2) 近年においても、日英同盟研究は進展している。日英同盟の締結については、日露戦争研究の一環として、伊藤之雄氏、千葉功氏、佐藤守男氏、平野龍二氏らによって分析が深められた。また、1910年代の日米関係、日中関係と日英同盟の関わりについては、ウッドハウス・エイコ氏、高原秀介氏などによって、解明が進められてきた。しかし、史料状況が大きく改善されているにもかかわらず、新しい史料を系統的に用いた日英同盟の研究は、それほど多いわけではない。その中でも研究が不足している同盟の衰退過程について、一次史料に基づいた実証的・体系的な分析を進めようというのが、本研究を構想したきっかけである。

### 2. 研究の目的

(1) 研究代表者は、近年、日英同盟の成立から動揺に至る過程を順次検討してきた。これまで既に、日英同盟の成立過程における加藤高明の役割、韓国併合とイギリスの関わりなどについて分析を行っており、本研究ではこれらの成果の上に立ち、日英同盟廃棄の要因やその過程について、特に第一次世界大戦期に焦点を当てながら、解明を進めた。

(2) 具体的には、日英および中国、アメリカ、オーストラリアなどの外交を分析し、同盟廃棄に至った国際的要因を考察すると共に、日英両国のジャーナリズムにおける相互認識の変化を中心として、世論要因を検討した。さらに、日英間における経済要因が外交に与えた影響についても分析し、戦前期日本外交の基軸であった日英同盟が崩壊し、日本が国際的に孤立していった要因について新たな視点・解釈を提示することを目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、日本、イギリスの一次史料を幅広く収集し、二国間の外交交渉過程を微細に分析することを基本方針とした。とりわけイギリスでは、国立公文書館、大英図書館、オックスフォード大学ボードリアン図書館、ケンブリッジ大学図書館などにおいて、関連史料の悉皆調査を実施した。また、オーストラリアの公文書館(キャンベラ)、米国のハーバード大学ワイドナー図書館、台湾の

中央研究院においても史料調査を行った。

(2) さらに本研究では、狭義の外交史ではあまり使用されてこなかった新聞社の文書、ジャーナリストの個人文書を駆使することによって、世論要因や経済要因を外交史的分析に組み込み、多面的な分析を行うことを試みた。具体的に言えば、イギリスのタイムズ文書館、オーストラリアのミッチェル図書館、朝日新聞社などが所蔵する一次史料を活用した。

### 4. 研究成果

(1) 当初は日英同盟の衰退過程全般について分析を進める予定であったが、第一次世界大戦期の史料が予想以上に膨大に残されていることが判明し、それらを分析した結果、第一次世界大戦がこれまで言われてきた以上に日英同盟を大きく動揺させたことが分かってきたため、本研究の外交史的分析は、第一次世界大戦期にほぼ集中することとした。

(2) 主な研究成果としては、第一に、日英同盟を名目として日本が第一次世界大戦に参戦した過程を明らかにしたことが挙げられる。この成果は、論文「参戦外交再考」、単著『「八月の砲声」を聞いた日本人 - 第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」』などとして公刊した。

(3) 第二に、日本が1915年に中国に提出した対華二十一カ条要求が日英同盟を大きく動揺させたことを解明したことが挙げられる。この成果は、研究期間中に多くの学術論文の形で発表し、それらを単著『対華二十一カ条要求とは何だったのか - 第一次世界大戦と日中対立の原点』として公刊した。

(4) 第三に、日英同盟研究に不可欠な重要史料を史料集として公刊したことが挙げられる。研究代表者による詳細な解題を付して出版した加藤高明『滞英偶感』、『新日本』(復刻版)がそれに当たる。これらは、今後日英同盟研究を進めるにあたって必須の史料として活用されるものと見込まれる。

(5) 第四に、各種学会で研究報告や講演を行ったことが挙げられる。研究期間中に第一次世界大戦開戦100年(2014年)を迎えたため、海外では第一次世界大戦関連の学会やシンポジウムが多数開催された。しかし、従来欧米と日本の第一次世界大戦研究の接点は稀薄であった。そこで研究代表者は、両者の相互理解を深めるべく、海外の学会で積極的に成果報告を行うことに努め、ドイツ、スロヴェニア、台湾で研究報告を実施した。今後は、これらの機会に得られたフィードバックを学術論文や著書に反映させていくことに努めるとともに、ここで構築した学術的ネット

トワークを活かして、さらに研究を進展させていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

奈良岡聰智、第一次世界大戦初期における日本の外交世論 参戦と二十一カ条要求をめぐって Ⅰ(一)(二)(三・完) 法学論叢、査読無、174 巻 5,6 号、175 巻 2 号、2014 年、1-32 頁、1-28 頁、

奈良岡聰智、二十一カ条要求提出の背景 日露戦後の日中関係と加藤高明、法学論叢、査読無、176 巻 2・3 号、2014 年、348-396 頁

奈良岡聰智(岡田暁生・藤原辰史との対談)、第一次世界大戦と私たちの今、公研、査読無、52 巻 8 号、2014 年、38-55 頁

奈良岡聰智(梶原克彦との共著)(書評) 大津留厚『捕虜が働くとき：第一次世界大戦・総力戦の狭間で』(人文書院、2013 年)、西洋史学、査読無、254 号、2014 年、180-183 頁

奈良岡聰智、二十一カ条要求の策定過程 第五号をめぐる加藤高明外相の外交指導、法学論叢、査読無、176 巻 5・6 号、2015 年、266-327 頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦と原敬の外交指導 一九一四～二一年、原敬をめぐる「政治空間」 芝本邸・盛岡別邸・腰越別荘、原敬と政党政治の確立(伊藤之雄編著) 千倉書房、査読無、2014 年、239-321 頁、619-668 頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦初期の日本外交 参戦から二十一カ条要求まで、現代の起点 第一次世界大戦(山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編) 第 1 巻、岩波書店、査読無、2014 年、127-147 頁

奈良岡聰智、日本と第一次世界大戦 - 開戦百年によせて、公研 605 号、査読無、2014 年、16 - 17 頁

奈良岡聰智、アングロファイルの英国論、加藤高明『滞英偶感』(中公文庫) 査読無、2014 年、189 - 225 頁

奈良岡聰智、雑誌『新日本』と大隈重信、『新日本(復刻版)』(柏書房) 査読無、2014 年、1 - 31 頁

Sochi Naraoka, A New Look at Japan's Twenty-One Demands: Reconsidering Katō

Takaaki's Motives in 1915, The Decade of the Great War: Japan and the Wider World in the 1910s(Tosh Minohara, Tze-ki Hon and Evan Dawley eds), Brill, 査読無、2014, pp.189-210

奈良岡聰智(川島真との対談)、東アジアの国際秩序：中国とどう向き合うべきか？、公研 593 号、査読無、2013 年、36-51 頁

奈良岡聰智、内田のキャリアと人脈：第一次外相就任まで、内田康哉関係資料集成(小林道彦・高橋勝浩・奈良岡聰智・西田敏宏・森靖夫(編)) 第 1 巻、柏書房、査読無、2012 年、646 - 653 頁

奈良岡聰智、イギリス王室の現在、公研 589 号、査読無、2012 年、16 - 17 号

奈良岡聰智、加藤高明と陸奥廣吉、曾我部真裕 = 赤坂幸一編『憲法改革の理念と展開』上巻(信山社) 査読無、2012 年、683 - 715 頁

[学会発表](計 10 件)

奈良岡聰智、第一次世界大戦と日中関係 - 二十一カ条要求を中心として、日本国際政治学会 2014 年度研究大会・部会 3「第一次世界大戦とアジア - 日本・中国・インドと国際秩序の変容」、2014 年 11 月 14 日、福岡国際会議場

奈良岡聰智、第一次世界大戦中のドイツにおける日本人抑留者の運命(招待講演)、ベルリン独日協会主催講演会、2014 年 9 月 2 日、ベルリン独日協会

奈良岡聰智、第一次世界大戦中のドイツにおける日本人抑留者の運命(招待講演)、リュネブルク独日協会主催講演会、2014 年 9 月 3 日、リュネブルク市公会堂

奈良岡聰智、対華二十一カ条要求とイギリス、東アジア近代史学会第 19 回大会シンポジウム「第一次世界大戦と東アジア世界の変容 第一次世界大戦勃発 100 年にあたって」、2014 年 6 月 22 日、麗澤大学

奈良岡聰智、日本にとって第一次世界大戦とは何だったのか、日本国史学会「第一次世界大戦 100 周年シンポジウム」、2014 年 4 月 20 日、スター貸会議室御茶の水駅前カンファレンスルーム 1

奈良岡聰智、参戦外交再考 第一次世界大戦の勃発と加藤高明外相のリーダーシップ、「日本近代的領袖群像」国際學術研討会、2014 年 3 月 15 日、中央研究院亞太區域研究專題中心(台湾台北市)

Sochi Naraoka, The Japanese who heard the “Guns of August”: the Outbreak of the First World War and Japanese Internees in Germany, international conference “The East Asian Dimension of the First World War: The German-Japanese War and China, 1914-1919”, 6 September 2014, Ruhr University Bochum

Sochi Naraoka, Rethinking Japan’s Entry into the First World War: the Outbreak of the War and Kato Takaaki’s Leadership, the 14th Annual EAJS(European Association of Japanese Studies) Conference, 29 Aug 2014, University of Ljubljana

奈良岡聡智、陸奥宗光・廣吉父子と英学(招待講演)、日本英学史学会第48回全国大会、2012年10月20日、和歌山大学

奈良岡聡智、ダイヤモンド・ジュブリーと皇室外交に見る日英関係(招待講演)、JSPS ロンドン第1回在外研究員のためのネットワークイベント、2012年8月15日、JSPS ロンドンレクチャーホール

〔図書〕(計4件)

奈良岡聡智、「八月の砲声」を聞いた日本人 - 第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」、千倉書房、2013年、375頁

奈良岡聡智、対華二十一カ条要求とは何だったのか 第一次世界大戦と日中対立の原点、名古屋大学出版会、2015年、488頁

奈良岡聡智(編纂・校訂・脚注作成)、加藤高明『滞英偶感』(中公文庫)、2014年、225頁

奈良岡聡智(監修)、『新日本(復刻版)』(柏書房)第1回配本(明治44年12月~大正元年12月)、第2回配本(大正2年1月~大正3年12月)、2014年、各総5500頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奈良岡聡智 (NARAOKA Sochi)  
京都大学・法学研究科・教授  
研究者番号：90378505

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし